

安全データシート ダイアジノン粒剤 5

1 製品名及び会社情報

製品名： ダイアジノン粒剤 5
 会社名： 日本化薬株式会社
 住所： 東京都千代田区丸の内二丁目 1 番 1 号
 担当部門： アグロ事業部
 電話番号： 03-6731-5325
 FAX番号： 050-3730-8045
 緊急連絡先： 平日昼間 アグロ事業部(電話番号 03-6731-5325)
 休日・夜間 鹿島工場(電話番号 0479-46-2753)
 メールアドレス：agro.info@nipponkayaku.co.jp
 用途及び使用上の制限：農薬

2 危険有害性の要約

重要危険有害性及び影響

有害性： 火災の場合には、硫黄酸化物系などの有害ガスが発生する。
 環境影響： 鳥類、ミツバチに有害のおそれがある。
 水生生物に対して毒性のおそれがある。

GHS 分類

物理化学的危険性	可燃性固体	区分外
	自己発火性固体	区分外
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分外
	急性毒性(経皮)	区分外
	皮膚腐食性/刺激性	区分外
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分外
	皮膚感作性	区分外
	発がん性	区分外
	生殖毒性	区分外
環境に対する有害性	特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分外
	水生環境有害性(急性)	区分 1
	水生環境有害性(慢性)	区分 1

上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHS ラベル要素

絵表示：



注意喚気語： 警告
 危険有害性情報： 水生生物に非常に強い毒性
 長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性



安全データシート ダイアジノン粒剤5

- 重要な徴候： 本剤は有機リン化合物であり、有機リン剤に共通の症状を示す。
- 注意書き：
 [予防策] この製品を使用する時に、飲食または喫煙はしないこと。
 取り扱い後は良く手を洗うこと。
 保護手袋、保護眼鏡、保護面、保護衣を着用すること。
 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
 粉塵／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。
 汚染された作業衣は作業所から出さないこと。
 環境への放出は避けること。
- [応急措置]
- 吸入した場合： 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 気分が悪いときは医師に連絡すること。
- 皮膚についた場合： 大量の水と石鹼で洗うこと。
 直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと。
 汚染された衣類を再利用する場合には洗濯、汚染の除去をすること。
- 眼に入った場合： 清浄な水で15分以上洗眼する。医師の手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合： 直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。
- 皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断／手当てを受けること。
- 漏出した場合： 漏出物を回収すること。
- [保管] 直射日光を避け、涼しく乾燥した場所に、密閉して保管する。
 食品、飼料と一緒に保管しないこと。
- [廃棄] 内容物／容器を適切な焼却炉で焼却処理するか、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理すること。

3 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

化学名(又は一般名)： O, O-ジエチル O-2-イソプロピル-6-メチルピリミジン-4-イル ホスホロチオエート

成分及び含有量

成分	含有量(%)	CAS番号	官報公示整理番号	
			化審法	安衛法
ダイアジノン	5.0	333-41-5	5-923	別表第9の343
非晶質二酸化ケイ素(シリカ)	3.2~3.3	112926-00-8	1-548	別表第9の312
鉱油	0.1~0.15	非公表	—	別表第9の168
その他	91.55~91.7	営業秘密につき非公開		

危険有害成分 : ダイアジノン(劇物)

安全データシート ダイアジノン粒剤5

4 応急処置

- 吸入した場合： 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。直ちに医師の処置を受ける。
多量の水、温水またはうがい薬を用いてうがいをし、医師の手当てを受ける。
- 皮膚に付着した場合： 汚染された衣類を脱ぎ、多量の水または石鹼水でよく洗い落とす。速やかに医師の手当てを受ける。
- 眼に入った場合： 清浄な水で15分以上洗眼する。医師の手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合： 吐かせないで、直ちに医師の手当てを受ける。
被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。速やかに医師の手当てを受ける。
- 最も重要な徴候及び症状に関する簡潔な情報： 以下のような、有機リン剤に共通の症状を呈す。
瞳孔収縮、昏睡、痙攣、嘔吐、下痢、腹痛、流涎
- 応急処置をする者の保護： 救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。
- 医師に対する注意事項： 本剤は有機リン系のコリンエステラーゼ阻害剤である。
解毒剤としては硫酸アトロピン、2-PAMが有効とされている。

5 火災時の処置

- 消火剤： 噴霧水・泡消火剤・粉末ドライケミカル・炭酸ガス(適宜、状況に応じて使用する)
- 火災時の特定危険有害性： 当該製品は分子中に窒素、燐、硫黄を含有しているため、燃焼ガスには硫黄酸化物系などの有害ガスが含まれる。消火作業の際には、煙を吸入しないように注意する必要がある。
- 特定の消火方法： 消火作業は、可能な限り風上から行う。
速やかに容器を安全な場所に移す。
移動不可能な場合は、周辺または容器に散水し冷却する。
消火のための放水等により、環境に影響を及ぼさないよう適切な措置を行う。
- 消火を行う者の保護： 消火に当たる者は、有毒ガスが発生するので呼吸保護具を着用する。
消火の際は適切な保護具(マスク、眼鏡、手袋)を着用する。

6 漏洩時の処置

- 人体に対する注意事項： 漏洩した場所の周辺にロープを張るなどして、関係者以外の立ち入りを禁止する。
処理時には保護具(防毒マスク、ゴム手袋、保護眼鏡、保護衣)を着用し、吸入したり、手足、顔などに付着しないようにする。
- 環境に対する注意事項： 本剤は海洋汚染物質である。

安全データシート ダイアジノン粒剤 5

流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起ささないように注意する。

除去方法： 少量の場合 掃き集め、密閉容器に回収する。
大量の場合 粉塵が飛散しないように注意しながら、出来るだけ掃き集め、密閉容器に回収する。

7 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い

技術的対策： 炎、火花、もしくは高温体との接触または過熱を避ける。
取扱場所には、関係者以外の立ち入りを禁止する。
取扱いは換気のよいところで行う。
皮膚、粘膜または着衣に触れたり、目に入らないようにする。
発散した粉塵を吸い込まないようにする。
休憩場所には、手洗い、洗眼などの設備を設け、取り扱い後には手などをよく洗う。
食品や飼料への混入を避けること。
指定された場所以外では、飲食、喫煙しないこと。
保護衣、保護眼鏡、保護手袋など、適切な保護具を着用する。
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずるなどの乱暴な取り扱いをしてはならない。

注意事項： みだりに粉塵が発生しないように取り扱う。

安全取扱注意事項： 特別な情報はない。

保管

適切な保管条件： 直射日光を避ける。
涼しく乾燥した場所に、密封して保管する。
食品、飼料と一緒に保管しないこと。
高温体、裸火のそばに保管しないこと。

安全な容器包装材料： 基本的には製品容器を使用する。

8 暴露防止及び保護処置

設備対策： 局所排気装置の設置または全体換気を適切に行うことが望ましい。
取扱場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設ける。

管理濃度： ダイアジノン 設定されていない。
鉍油 設定されていない

許容濃度

日本産業衛生学会勧告：	ダイアジノン	0.1 mg/m ³
	鉍油(鉍油ミストとして)	3 mg/m ³
ACGIH勧告：	ダイアジノン	TLV-TWA 0.1 mg/m ³ (経皮吸収性)
	鉍油(鉍油ミストとして)	TLV-TWA 5 mg/m ³

安全データシート ダイアジノン粒剤 5

保護具

呼吸器用の保護具： 防塵マスク
手の保護具： ゴム手袋
皮膚及び身体の保護具： 保護衣(長袖)、保護眼鏡

9 物理的及び化学的性質

物理的状态

形状： 細粒
色： うすみどり色
臭い： わずか硫黄のような臭気
pH： 該当しない

物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲

融点： 測定不能(ダイアジノン)
沸点： 大気圧条件化では沸騰せず、215℃以上で分解(ダイアジノン)
引火点： データなし
爆発特性： データなし
密度： 1.5 g/cm³ (20℃)
溶解性： 溶剤に不溶。水に不溶。
オクタノール/水分配係数: log P_{ow} = 3.42 (ダイアジノン)

10 安定性及び反応性

安定性： 通常取り扱い条件においては安定である。
反応性： 酸性下では分解が速い。
アルカリ条件下では徐々に分解する。
酸化されやすい。
避けるべき条件： 酸、アルカリとの接触を避ける。
酸化剤との接触を避ける。
危険有害な分解生成物： 酸化物(ダイアゾクソン)

11 有害性情報

※ 以下、急性吸入毒性以外の急性毒性から皮膚感作性までの情報は、鉱油成分を含む本製品(混合物)を用いて実施した試験結果に基づく情報
急性吸入毒性の情報については、鉱油成分を添加済みのダイアジノン原体を用いて実施した試験結果に基づく情報

急性毒性：経口 ラット LD₅₀ 雌, >2000 mg/kg (区分外)
本製品2000 mg/kg経口投与による死亡例はなく、毒性の臨床
症状も認められなかったことから、ヒトの健康に対して急性
的な懸念が示唆されないため、区分外とした。
経皮 ラット LD₅₀ 雌雄, >2000 mg/kg (区分外)
本製品2000 mg/kg経皮投与による死亡例はなく、毒性の臨床

安全データシート ダイアジノン粒剤5

- 症状も認められなかったことから、ヒトの健康に対して急性的な懸念が示唆されないため、区分外とした。
- 吸入 ダイアジノン ラット LC₅₀ 3.1 mg/L (ミスト) (区分4)
非晶質シリカ ラット LC₅₀ > 2.0 mg/L (粉塵) (区分4)
上記以外の成分について、利用可能な吸入暴露データがなく、有害性未知成分の合計が10%を超えるため、未知成分補正の加算式より求めたATEmix値に基づき、区分4とした。
- 皮膚腐食性・刺激性： ウサギを用いた皮膚刺激性試験において、分類基準を満たす刺激性変化が認められなかったため、区分外とした。
- 眼の重篤な損傷・刺激性： ウサギを用いた眼刺激性試験において、投与24時間後の観察で結膜に発赤が認められた(平均評点1.3)が、48及び72時間後の観察では角膜、虹彩及び結膜に刺激性変化は認められなかったため、区分外とした。
- 呼吸器感作性： いずれの成分についても情報なし (分類できない)
- 皮膚感作性： モルモットを用いた皮膚感作性試験(Buehler法)において、皮膚反応が認められなかったため、区分外とした。
- ※ 以下のダイアジノンの情報は、吸引性呼吸器有害性を除き、鉱油成分を添加済みのダイアジノン原体を用いて実施した試験結果に基づく情報
- 変異原性： ダイアジノン 復帰変異、染色体異常及び小核誘発性、陰性 (区分外)
非晶質シリカ 陰性 (区分外)
製品中の対象成分の分類がいずれも区分外であるため、区分外とした。
- 発がん性： ダイアジノン 陰性(ラット、マウス) (区分外)
非晶質シリカ 陰性 (区分外)
製品中の対象成分の分類がいずれも区分外であるため、区分外とした。
- 生殖毒性： ダイアジノン 催奇形性 陰性(ラット、ウサギ)、繁殖 影響なし(ラット) (区分外)
非晶質シリカ 陰性 (区分外)
製品中の対象成分の分類がいずれも区分外であるため、区分外とした。
- 特定標的臓器毒性(単回暴露)：
本製品のラット及びマウスに対する経口暴露試験において、非致死用量を投与した動物にダイアジノン(区分2(神経系))と同様の中毒症状が観察された。マウスに対する非致死用量がガイドランス値範囲内であり、いずれの種においても神経系に対する影響が示唆されたことから、区分2(神経系)とした。
- 特定標的臓器毒性(反復暴露)：
ダイアジノンの特定標的臓器毒性(反復暴露)が区分2(腎臓、神経系、肝臓、精巣)であり、毒性影響を発現し得る本製品の用量(含量換算値)が区分2のガイドランス値の範囲内であることから、本製品についても区分2(腎臓、神経系、肝臓、精巣)とした。
- 吸引性呼吸器有害性：
ダイアジノン及び二酸化ケイ素 情報なし (分類できない)
鉱油 40℃の動粘性率が20.5 mm²/s以下の炭化水素であり、ヒトの

安全データシート ダイアジノン粒剤 5

摂取により肺への吸引を起こし、その結果、油性肺炎または化学性肺炎をもたらすとの報告がある。(区分1)
製品中の対象成分のうち、区分1に分類される対象成分が10%未満であるが、その他の成分の情報がないため、分類できない。

1.2 環境影響情報

生態毒性(水生生物)：	(本製品の情報)		
	コイ	急性LC ₅₀	283 mg/L (96時間)
	オオミジンコ	急性遊泳阻害EC ₅₀	0.015 mg/L (48時間)
	緑藻	生長阻害E _r C ₅₀	219 mg/L (72時間)
	(ダイアジノン原体の情報)		
	オオミジンコ	慢性遊泳阻害NOEC	≥200 ng/L(21日間)
		繁殖EC ₅₀	191 ng/L(累積産仔数)
		繁殖NOEC	50 ng/L(累積産仔数)
水生環境急性有害性：	甲殻類に対する急性影響に基づき、区分1とした。		
残留性/分解性：	酸化分解または加水分解により速やかに分解		
生物濃縮性：	BCF = 65~78		
水生環境慢性有害性：	慢性区分1の成分を5%含み、毒性乗率を適用した濃度が25%以上となるため、区分1とした。		

1.3 廃棄上の注意

残余廃棄物：	下水道、いかなる水域、土地にも投棄してはならない。
汚染容器、包装：	容器・包装等を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理すること。 使用した器具を洗浄する際、環境や水の汚染を避けること。 空容器を再利用してはならない。

1.4 輸送上の注意

国際規制	陸上輸送：	ADR/RID	クラス9	PGIII
	海上輸送：	IMDGコード	クラス9	PGIII
	航空輸送：	ICAO/IATA	クラス9	PGIII
国連分類：	クラス9 (環境有害性物質)			
国連番号：	3077			
品名(国連輸送名)：	ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N. O. S., DIAZINON			
追加情報：	MARINE POLLUTANT			
国内規制	陸上輸送：	道路法の規定に従った容器・包装・表示、積載・輸送方法により輸送する。		
	海上輸送：	船舶安全法の規定に従った容器・包装、表示、積載・輸送方法により輸送する。		

安全データシート ダイアジノン粒剤 5

航空輸送： 航空法の規定に従った容器・包装、表示、積載・輸送方法により輸送する。

特定の安全対策及び条件： 容器が破損しないように、混載するときは注意すること。取り扱い及び保管上の注意事項に留意する。

1 5 適用法令

農薬取締法	適用(農林水産省登録 第10438号)												
毒物及び劇物取締法	非該当												
消防法	非該当												
労働安全衛生法	以下のものは第57条の2(通知対象物)に該当												
	<table border="0"> <tr> <td>名称</td> <td>番号</td> <td>含有率</td> </tr> <tr> <td>ダイアジノン</td> <td>343</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>シリカ(非晶質)</td> <td>312</td> <td>3.2~3.3%</td> </tr> <tr> <td>鉱油</td> <td>168</td> <td>0.1~0.15%</td> </tr> </table>	名称	番号	含有率	ダイアジノン	343	5%	シリカ(非晶質)	312	3.2~3.3%	鉱油	168	0.1~0.15%
名称	番号	含有率											
ダイアジノン	343	5%											
シリカ(非晶質)	312	3.2~3.3%											
鉱油	168	0.1~0.15%											
化学物質管理促進法	(2009年10月1日に施行された改正法に伴う記載) 以下のものは指定化学物質に該当												
	<table border="0"> <tr> <td>名称</td> <td>種別</td> <td>番号</td> <td>含有率</td> </tr> <tr> <td>ダイアジノン</td> <td>第一種</td> <td>248</td> <td>5%</td> </tr> </table>	名称	種別	番号	含有率	ダイアジノン	第一種	248	5%				
名称	種別	番号	含有率										
ダイアジノン	第一種	248	5%										
環境基本法	水質要監視項目(ダイアジノン、指針値 0.005 mg/L)												

1 6 その他の情報

記載内容の問合せ先：	アグロ事業部 03-6731-5325																
改訂の記録：	<table border="0"> <tr> <td>作成</td> <td>1993年 4月 1日</td> </tr> <tr> <td>改訂</td> <td>2001年 7月11日 (組織名変更)</td> </tr> <tr> <td>改訂</td> <td>2005年 1月 6日 (JIS 2004対応、組織名変更)</td> </tr> <tr> <td>改訂</td> <td>2007年 5月14日 (GHS対応)</td> </tr> <tr> <td>改訂</td> <td>2009年10月 1日 (改正PRTR法対応、組織名変更)</td> </tr> <tr> <td>改訂</td> <td>2010年12月16日 (労安法(GHS改訂3版)対応)</td> </tr> <tr> <td>改訂</td> <td>2014年 8月18日 (本社移転に伴う住所表記、連絡先等の変更)</td> </tr> <tr> <td>最終改訂</td> <td>2016年 6月 1日 (労安法改正による通知物質の情報追加及び見直し)</td> </tr> </table>	作成	1993年 4月 1日	改訂	2001年 7月11日 (組織名変更)	改訂	2005年 1月 6日 (JIS 2004対応、組織名変更)	改訂	2007年 5月14日 (GHS対応)	改訂	2009年10月 1日 (改正PRTR法対応、組織名変更)	改訂	2010年12月16日 (労安法(GHS改訂3版)対応)	改訂	2014年 8月18日 (本社移転に伴う住所表記、連絡先等の変更)	最終改訂	2016年 6月 1日 (労安法改正による通知物質の情報追加及び見直し)
作成	1993年 4月 1日																
改訂	2001年 7月11日 (組織名変更)																
改訂	2005年 1月 6日 (JIS 2004対応、組織名変更)																
改訂	2007年 5月14日 (GHS対応)																
改訂	2009年10月 1日 (改正PRTR法対応、組織名変更)																
改訂	2010年12月16日 (労安法(GHS改訂3版)対応)																
改訂	2014年 8月18日 (本社移転に伴う住所表記、連絡先等の変更)																
最終改訂	2016年 6月 1日 (労安法改正による通知物質の情報追加及び見直し)																
引用文献：	国際連合 化学品の分類および表示に関する世界調和システム(GHS)(改訂4版) THE PESTICIDE MANUAL(第15版) 農薬抄録 ダイアジノン																

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。



日本化薬株式会社
作成年月日：1993年 4月 1日
改訂年月日：2016年 6月 1日

安全データシート ダイアジノン粒剤5

ありません。すべての化学製品には未知の有害性があり得るため、取り扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定下さるようお願い申し上げます。また、記載事項は通常の取り扱いを対象にしたものですので、特別な取り扱いをする場合には新たに用途、用法に適した安全対策を実施のうえ、お取り扱い願います。